

金沢箔



HDP-40TH1GL

手作業の極致
美の極致
金沢箔
精緻を極めた
美しさで魅了する
金銀が
ミクロの薄さを得て
華麗な光として
燦然と輝く
金沢箔の世界

Kanazawa Leaf

金沢箔の歴史

金・銀箔が、わが国においていつ頃から作られたかは明らかではありませんが、金・銀箔がわが国の文化史上に重要な役割を果たしてきたことは、数多くの文化遺産の中に、その実証を見ることができます。古くは、天平勝宝四年（七五二年）大仏開眼供養が行われた東大寺大仏殿の鴟尾（しび）も金箔によって燦然と輝いていたと伝えられ、また、日本仏教に大きな稊りをもたらした唐の高僧、鑑真和尚によって創建された唐招提寺の本尊、盧舎那仏、千手観音等、飛鳥、天平文化を彩る寺院建築や仏像彫刻、更には、平安時代の平泉の中尊寺金色堂、室町前期北山文化を代表する金閣寺や、桃山時代の豪

華絢爛たる屏風、襖絵、江戸時代の日光東照宮や飾棚、手宮、時絵、屏風をはじめとする調度品などの美術工芸品等々、金箔は、その芸術性を高めるための重要な資材としての役割を果たしてきました。更に、日本の建築、家具、調度品、器物の多くが木を素材としていることから、漆とともに金箔が、それらの文化遺産の耐久性を高め、わが国の重要文化財を現代に伝えるための大きな役割を果たしてきましたのと高く評価されています。

この金・銀箔が、金沢で初めて作られたのは、文献の上では、文禄二年（一五九三年）加賀藩祖、前田利家が豊臣秀吉の朝鮮の役の陣中より、国元へ金・

銀箔の製造を命じる書を寄せていることに始まります。以来、加賀藩の産業振興策としての美術工芸奨励策に培われ、また、蓮如上人による浄土真宗の信仰の高隆に育まれて、遠く天平の昔に端を発した伝統的技術が連綿として、千二百年の光陰の中を生き続け、ここ金沢の地に受け継がれてより約四百年、今日の金沢箔産地を形成したのです。そして、この歴史的要因と併せて、もう一つの立地条件としては、金沢が箔の製造に適した気候、気温を持ち、良い水質に恵まれているという風土的要因が上げられます。

このような立地要因の下に受け継がれ、磨き上げられてきた金沢箔は、現代のわが国の日常生活の中に深く根を下

し、仏壇、仏具の宗教工芸の主要資材として、また、金屏風、西陣織、漆器、陶磁器、縁、扇子、襖紙、壁紙、水引、金看板、金文字等々、多くの生活工芸品、商業美術等の上には欠く事のできない資材として発展してきました。そして、昭和五十二年には、わが国の伝統的工芸品産業の用具材料部門において、初の通商産業大臣指定を受けるに至ったのもまた、故なきではありません。

このようにして、わが国の長い歴史と文化とともに受け継がれ、今日、わが国内における独自の箔産地を築いてきた金沢箔は、今後わが国の国民信仰と生活文化の中に生き続け、その伝統によって磨かれた技術は長く受け継がれていくことでしょう。

金箔

古くから神社仏閣の建造物として、また、仏壇、仏具、織物の金糸、漆器の沈金、時絵、陶磁器の絵付、金屏風、金看板、金文字、鍍金など多くの美術工芸品に欠くことのできない重要な資材として大きな役割を果たしています。今では食品や化粧品などにも利用されています。

銀箔

織物用銀糸や金属糸、扇子、襖紙、壁紙、表具、水引などの各種工芸品、そして製薬用にと幅広く利用されています。

洋箔

（真鍮箔）

銅と亜鉛の合金からつくられます。用途は、額縁、襖紙、壁紙をはじめとしてあらゆるインテリア産業の分野で、また、表装、製本、印刷、仏具などにも使われています。

アルミ箔

純粋なアルミ地金からつくられ、襖紙、壁紙、印刷、装飾、または千代紙用としての押紙や、織物用銀箔の代用に役立てられています。

金沢箔の出来るまで

一 金合せ



溶解炉にて、純金94.438%、純銀4.901%、純銅0.661%(四号色の場合の合金配合率)の合金を作り、流し型に流して成型する。

二 延べ金



成型された金合金をロール圧延機にて、約100分の5〜6ミリの厚さまで圧延する。

三 渡し仕事



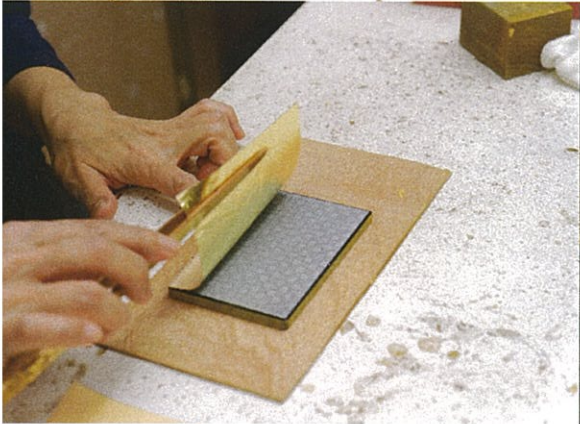
次第に大きな澄打紙に移し変え(5回)、約21センチ角、厚さ1.000分の1〜2ミリまで打延ばす。

四 打ち前 (箔打ち)



袋革に包まれたバックを箔打機にて3分間打ち、15分間熱を冷ます作業を数十回繰返して、厚さ10,000分の1ミリまで打延ばす。

五 箔押し



素材の各部分に漆などの接着剤で一枚一枚丁寧に箔を貼り、華麗な箔製品として作り上げる。